

これからのは「避難」とは

『避難情報が
変わりました』

(図1)は5月20日に新しくなった5段階の警戒レベルです。『備えあれば』の言葉どおり、自分の住んでいる地域のことを知ることから始めてみませんか。

新しくなった5段階の「警戒レベル」

警戒レベル	避難情報等	避難情報等の発令者	具体的な行動
5	※1 緊急安全確保	市	命の危険が迫っています。 安全の確保を最優先に！
4	※2 避難指示	市	危険な場所から すぐに避難を！
3	※3 高齢者等避難	市	避難に時間要する方は 避難を！
2	大雨・洪水注意報	気象庁	避難経路などを 確認しましょう
1	早期注意情報	気象庁	あらゆるものから 情報を集めましょう

※1 必ず発令される情報ではありません。

※2 これまでの「避難勧告」を出すタイミングで発令します。

※3 高齢者等以外の人も危険だと感じた場合は必要に応じて行動の見合わせや、避難準備、危険を感じたら
自動的に避難するタイミングです。

警戒レベル4で 『避難指示』

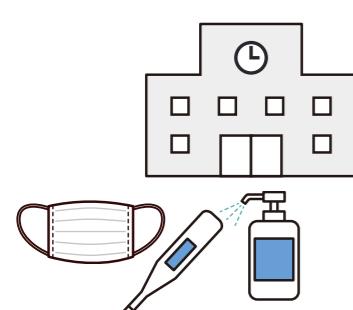
これまでレベル4で発令された
いた「避難勧告」が廃止され、「避
難指示」に統一されました。これ
は、過去の災害において「勧告」
という言葉では避難行動を取る人
が少なかった反省を踏まえたもの
です。今後は「避難指示」が出た際に
は、必ず自分や家族が安全になる
行動を取りましょう。あなたの行
動が被害を最小限に抑えます。

小中学校や公民館に行くことだけが避難じゃないんだね

指定された 避難場所への避難

持っていくもの

- 非常持ち出し品(防災リュック)
- マスク、消毒液、体温計も備えておきましょう。



安全な親戚、 知人宅への避難

日頃から災害時に避難することを相談しておきましょう。
※ハザードマップで安全な場所であることを確認しておきましょう。



普段から、どう行動するか決めておきましょう！

参考：内閣府・消防庁のパンフレットより

地域の事情はさまざまです。自分が住んでいる地域のことを一番良く知っている皆さん自身が、それ危険を避けられる、命を守

避難の選択肢を増やす

地域にあつては、山側とは反対側の部屋に避難するなどの行動を考えておかなければなりません。



屋内での 安全確保

事前にハザードマップで、①浸水想定水位より居室が高いこと
②土砂災害の危険区域ではないこと また、③水が引くまでの間、水・食料などの備えが十分であるかを確認しておきましょう。



これからの 「避難」とは

これまで「避難場所」に行くことだけが安全な行動だとされてきました。

しかし、これまでの数々の災害の教訓から、避難場所での定員が超えてしまったり、避難場所に行こうと家を出たために命を落としてしまうという事例もあります。こうしたことから、避難とは必ずしも「避難場所」に行くことだけではありません。

例えば、すでに玄関まで水が迫っていたり、夜間に、今後豪雨や暴風雨などがさらに強まる恐れがある状況では、家を出ることは被災にあう可能性をより高めてしまうことになります。そのような場合は2階の部屋への避難(垂直避難)や、土砂災害が想定される地域にあつては、山側とは反対側の部屋に避難するなどの行動を考えておかなければなりません。

最も力を發揮する 「共助」の力

災害が発生した時に、最も力を發揮するのは「共助」の力によるものであるということは、これまでの災害の教訓から出たひとつのが、自分や家族の命を守ることになります。

コロナ禍の今だからこそ、地域どうし、ご近所どうしのつながりの大切さを改めて考える必要があります。答えです。

災害が発生した時に、最も力を發揮するのは「共助」の力によるものであるということは、これまでの災害の教訓から出たひとつのが、自分や家族の命を守ることになります。